

牛久：学校周辺に見る自然

第50号 中根小、ひたち野うしく小

2010年11月12日発行

＜秋の水辺公園^{みずべこうえん}7 ～ 冬鳥^{ふゆどり}もやってきました＞



今回、水辺公園で見られた鳥はまだ留鳥^{りゅうちよう}（一年中見られる）がほとんどでしたが、上の写真のようにコガモ（冬鳥）のメスがもうきていました。これから寒くなるにつれ、もっといろいろな冬鳥^{ふゆどり}が飛んでくるものと思われます。休日など、保護者^{ほごしゃ}の方など大人と一緒^{いっしょ}に暖かい服装で観察してはいかがでしょうか？その他、留鳥ですが、今回観察した鳥たちも紹介します。



左はカワウ。鵜飼^{うかい}に利用されるのはよく似たウミウの方です。よく羽を広げているのが観察されますが、これもウの仲間の特徴^{とくちょう}で、魚を捕えるのにもぐりやすいように羽が水をはじかないつくりをしているために、水から上がった時には羽を広げて乾かしているのだそうです。

次はカルガモ。雛^{ひな}たちを引き連れて皇居のお堀^{ほり}に引っ越す姿が、テレビなどで話題になりました。同じ「カモ」でも、こちらは一年中見られます。



そして左も留鳥、ハシボソガラス。農耕地^{のうこうち}や河川敷^{かせんじき}など開けたところに多く見られ、ハシブトガラスと比べて「ガーガー」と濁^{にご}った声で鳴きます。カキでしょうか、大きな木の実を運んでいるのもいました。



最後に、右のカワセミ。瑠璃色^{るり}の羽を広げて飛ぶ様子がきれいですが、羽は本来青くなく、光の当たり具合で青～緑に見えるのだそうです。すぐに飛び立ち動きも早く、遠くにとまっているのしか撮^とれませんでした。これも留鳥なので、また時間のあるときに挑戦してみたいです。

最後に、右のカワセミ。瑠璃色^{るり}の羽を広げて飛ぶ様子がきれいですが、羽は本来青くなく、光の当たり具合で青～緑に見えるのだそうです。すぐに飛び立ち動きも早く、遠くにとまっているのしか撮^とれませんでした。これも留鳥なので、また時間のあるときに挑戦してみたいです。

【理科支援員・宮内】

